

② 安全安心に 住み続けたいなる まちづくり

市が、平成25年12月に実施したアンケート調査では、恵庭の住みやすさについて9割近い市民が「住みよい」と回答しています。その要因に挙げられたのは、「交通の便がよい」、「買い物が便利」や「自然環境に恵まれている」など、恵庭の立地環境や住環境が良いことで、「暮らし」に関する満足度が高いことがうかがえます。また、将来の恵庭の姿としては、「安全安心に暮らせるまち」「高齢者が安心して暮らせるまち」といった「暮らしの安全安心」を望む声が多く寄せられています。



国内で多発する自然災害への対策や、超高齢社会における地域の足の確保など、「暮らしの安全安心」を確保することは、このまちに住み続けたいと思うための重要な要素となっており、こうした取り組みは、これまで行政が中心となって行なってきました。しかし、人口減少社会においては、市民や地域コミュニティが行政と協働して、自分たちの暮らしを守る仕組みづくりが必要になってきます。

市内では、これまで「花のまちづくり」や「通学合宿」など、地域のコミュニティによるまちづくり活動が活発に行なわれてきました。恵庭は、人と人とのつながりを広げることができるまちです。また、そうしたつながりに魅力を感じ、活動に加わろうとしている市民も多くいます。

市民が感じている「暮らし」の魅力を、より享受できるように、ハード面から市民が安全安心に過ごせる環境づくりを行うとともに、ソフト面でも市民同士が共に助け合うコミュニティづくりが重要であると考えられます。

③ 恵庭らしさを活かした 魅力あるまちづくり

市民の多くが魅力に感じている自然や農地に囲まれた静かな住環境については、市民が住みやすいと考える要因の一つとして挙げられています。また、恵庭に根付く地域のコミュニティもその魅力の一つとして挙げられており、今後も市民同士が連携を深めていくことが、各分野の諸課題に取り組む基礎になると考えられ、私たちの次の世代に魅力を継承することにつながります。

一方で、まだまだ恵庭には隠れた魅力が存在しており、大都市や空港の近郊という立地条件や豊かな食や自然環境を生かしていません。これまで通過していた人たちが、道と川の駅の開設などにより立ち寄るようになりましたが、それらが地域内へ拡大する取り組みは不十分と言えます。



今後、これら食や自然環境、立地条件、住環境など恵庭の魅力や資源を融合し、地域産業の活性化を図るとともに、北海道内のみならず、北海道外の方にもアピールし、住んでみたいと感じてもらうための魅力あるまちづくりが重要と考えます。

④ 希望を持って 子育てしたくなる まちづくり



若者の未婚・晩婚化、子育て家庭の核家族化が進み共稼ぎ家庭が増加するなど、ライフスタイルの変化により、子どもを産み、育てる環境は大きく様変わりしています。今後も同様の傾向が続くと見られ、国を挙げての少子化対策に特效薬は見出せない状況です。

そうした中、市内における交通の利便性や買い物環境などの生活環境と自然や農地に囲まれた静かな住環境は、子育て世代の市民にとって非常に魅力的な要素の一つとなっています。また、地域のコミュニティが根付き、子育て世代の市民同士の積極的なつながりも見られています。

しかし、一方では若者が住み続けるための雇用



の場は十分ではなく、子育て世代が働きながら子育てできる環境なども整いつつあるものの、まだまだ不十分と言えます。これらは行政だけで対応できるものではなく、地域・企業との連携が不可欠であり、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)は事業者の理解がなければなりません。

市が、平成25年に実施したアンケート調査では、ほとんどの人が子育ては楽しい、子どもの顔をみると気持ちが安らぐ、子どもがいると家庭が明るくなると回答しています。今後も周辺地域と連携を図りつつ地域コミュニティの力を生かしながら、若者が住み、働き、子どもを産み、育てる環境づくりが重要と考えます。